

堆肥化新技術による CO2 削減方法と期待できる効果 (メタン、エタノール採取有効利用を含む)

産業界などから発生する有機廃棄物はその種類、量とともに膨大で、その処理過程で排出される CO2 はこれも膨大になってきて地球環境を悪化させています。地球温暖化防止のため、今人類が待ったなしに行わなければならないことは次の二点であると思われます。

1、直接 CO2 を排出することを出来るだけ止めること。

(一例) 生ゴミなどの有機廃棄物の焼却を中止し、しかも市販のエネルギーを出来るだけ使わずにリサイクルして CO2 を削減し有効利用すること

2、間接的には、CO2 の排出の原因になる事項を出来るだけ少なくすること。

(一例) 有機廃棄物を処理する場合、水分の多い有機廃棄物は個液分離され、液体部分は浄化され排水されているが、実際にはその排水部分に窒素、りん等がかなり含まれている場合が多く、これが河川を汚し、湖、海を汚し、環境を悪くするだけでなく、ヘドロの元になり、メタン発生や CO2 発生の原因になっている。

温暖化防止のため、前項 1、において、焼却と堆肥化では堆肥化の方が CO2 の発生量は極端に少ないことが知られているので、「生ゴミ、汚泥、粉殻」など有機廃棄物を焼却から堆肥化にシフトすることであろう。

次に前項 2、においては、その堆肥化も水分の多い有機廃棄物(生ゴミ、食品残渣、畜産糞尿、し尿、汚泥、液体汚泥)なども水分の部分を河川に流さずに全部、「固形の堆肥」にすることが理想的です。これができたら、どんなに河川、湖、海がきれいになり、環境が良くなるだけでなく、同時にメタン、CO2 の発生源が止められ、どれだけ大きく温暖化防止に貢献できるか想像してください。

我社は 30 数年、リサイクル=堆肥化を研究し、完成したのが“CO2 を出来るだけ削減した堆肥化新技術”、“水を流さない堆肥化新技術”と“堆肥の作り分け新技術”で、これらと“現在開発中の新技術”を持って地球環境の改善、温暖化防止、CO2 削減に貢献したいと思っております。

温暖化防止対策として CO2 削減を実行するために「生ゴミなど」の有機廃棄物を焼却しないで堆肥化新技術で堆肥化を行いますが、その前に先ず、メタン、エタノールなどのエネルギーを採取して有効利用を行えばベストです。そして、そのエネルギーの一部を堆肥化のエネルギーに利用して、市販エネルギーを極力使用しない有機廃棄物の堆肥化を行い CO2 削減を図ります。同時に何物も河川、湖、海に投棄しないで固形堆肥化する堆肥化新技術で堆肥化を行って、将来 CO2 を大きく削減する温暖化防止策に寄与します。

もちろん、作る堆肥は農家の要望に出来るだけ応える堆肥づくりを目指す“堆肥の作り分け新技術”で行います。実はリサイクルにおいてこれが一番重要な項目です。お客様である農家の方々の欲しい堆肥に近づけることがリサイクルの成功、しいては温暖化防止に役立つ重要なことだと思われま

< 中部有機システム > もみがら有機開発有限会社